

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」を管理者職員一同心に刻み入居者様の安心安全を念頭に寄り添い信頼関係の構築に努めている。	開所時から事業所理念として「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」を掲げ、職員会議や事例検討等で常に振り返りの機会を設け、理念の共有と実践に繋げている。理念の他に、安心、安全、共に生きるを掲げ、穏やかに、ゆっくりくつろげる、もう一つの家を目指し、笑顔を常に意識し実践に繋げるよう努めている。地域に根ざしたグループホームの意欲を感じる。グループホーム独自の理念作成に取り組む姿勢に期待できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も地域の年中行事は全てコロナ感染拡大防止のため中止となったが散歩中に挨拶を交わしたり庭に咲くお花を頂き馴染みの関係に繋がっている。	地域との交流は町内会に加入し、回覧板等で地域の情報等共有している。現在、コロナ禍のため、行事等は自粛しているが、事業所主体で行われているお茶の間サロン「笑い・合い」を開催し、地域の方々とは和やかな交流の場となっている。また管理者は長年の経験と知識を活かし、認知症ケア、介護知識、技術等の講師や地域からの相談事にも対応する等、積極的な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人クラブや婦人会などの依頼を受け出前教室や健康教室に出向き認知症の理解や介護方法の相談など受けていたが近年コロナ禍で依頼はなく電話での相談が増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回開催している。行政、地域包括、区長、民生委員の参加を得、サービスの実践内容及び報告、参加者の意見要望、行政への質問等意見交換を活かしサービスの資質向上に努めている。	運営推進会議は定期的に行われ、状況報告とサービスの実績について報告し、行政、地域包括、区長、民生委員からの質問、意見、要望等をいただきサービス評価を取り組んだ運営推進会議を開催している。現在、コロナ禍で開催自粛のため、事業所の現状報告を書面で各委員に送付し、家族には来所時、施設の提供や報告を行い理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例や問題、課題など相談を細やかに連携し解決に向け助言等協力を得関係の構築に努めている。	市担当職員、包括支援センターとは積極的に連携が構築されており運営推進会議のみならず、折に触れ相談、助言、連絡等がなされ、共通理解を深めている。事業所も地域住民から介護、生活面の相談等は担当者から助言をもらい、何でも相談できる協力関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に前年度の目標に再度取り組みを継続している。スピーチロックは拘束の一環と認識し今後も事業所の課題として取り組んでいる。	委員会を中心に、隣接する同法人の小規模多機能事業所と合同研修を実施し、虐待防止関連法と身体拘束をしないケアについて話し合い理解を深めている。また、スピーチロック研修を行い、言葉や行為による拘束について理解を深め、日々の振り返りを行いながら、抑圧を感じさせない自由な暮らしの支援に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止については管理者をはじめ職員全員真摯に取り組んでいる。日々のミーティング等で確認、防止に努めている。	身体拘束の研修とともに虐待の定義は職員全員が共有できるよう取り組んでいる。日々の支援の中で何気なく発する言葉やケアが虐待に当たるかどうかが、日々のミーティング等で確認と振り返りを行い、日々の関わりの中でもより添い、本人の話に耳を傾け安心して過ごしてもらっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援事業や権利擁護、成年後見制度等機会があれば研修会に参加し個々の理解と活用に繋がる様取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書の内容に沿って説明と理解を得、締結している。不明な点や質問などについても丁寧に説明し納得を得られる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近年は感染拡大防止の観点から自宅に訪問などの実施は行えず電話や支払いに来院された時玄関先で現況報告等を行い意見や相談に応じている。	利用者には日頃の何気ない会話や動きの中から意見や要望を聞くようにしている。家族へは、病院受診、来所時に、普段の様子を伝えるとともに、要望、意見等を必ず聞くようにしている。現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、ふれあいコーナー室や電話対応にて現状報告となっている。要望、意見等は職員間で話し合い、事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間の事業所運営状況など報告会議にも職員の参加を得、意見や提案の機会を設け反映に活かしている。また適時職員の自己評価表記入と面談を実施している。	管理者は各会議参加の他、事業所運営状況報告会議にも職員の参加を得て、お互いに話し合える職場環境に心がけている。随時職員の自己評価表と面談を実施し、職員の意見、提案を直接聞く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時年数回個人面談を実施。職員のメンタルヘルスに取り組んでいる。今年度も昨年同期健康経営の取り組みで「健康習慣アンケート」を実施。結果を参考に環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は新人職員の採用もあり必要な資格取得支援を含め外部研修はオンラインで受講するなど職員の資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内でグループホーム連絡会議の開催を実施し情報交流の機会を得ることが出来意見交換などネットワーク作りに取り組んでいる。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との事前面接を通して今、困っている事や心配事、今後の暮らしの希望など傾聴し安心の確保と関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との事前面接を通して入所に辿りこれまでの生活歴や環境、今後の望む暮らしへの要望など情報収集し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階ですべての対応を見極めることは困難であるが出来るだけその時々の変化や状況を勘案し検討、必要なサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ふれ愛・寄り添い・共に生きる」の理念をモットーに共に支え合う関係の構築に努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、適時日常の暮らしやご本人の様子等家族に伝えご本人との関係の構築に努めている。	コロナ禍で家族との関係性が希薄にならないよう、限られた環境での面会であるが、感染対策を行い、ふれあいコーナーで楽しいひと時を過ごされている。家族からは通院受診の付き添いやお墓参り等、職員ではなし得ない部分を担っていただき、職員も家族は利用者にとってかけがえのない存在と認識し、より身近に感じてもらえるよう努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防対策を最大限に活かし面会の機会を講じている。県外から帰省した家族との面会も事前に健康チェックにご協力を頂き安全を確認し家族との関係構築に努めている。	コロナウイルス感染拡大防止のため、地域の方々との会話を楽しんでもらう機会も少ない現状であるが、隣接の利用者と花火大会での交流を図ったり、ドライブに出かけ風景を楽しむ機会を設けている。県外からの家族には感染予防対策を講じ、お墓参りや家族との関わりなどの繋がりを継続できるよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を共に支え築き合い一人ひとりの個性を尊重しお互いを認め支え合う関係作りの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても本人、家族との関係性を維持し必要に応じて相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時得た情報を「私の姿と気持ちシート」に記載し暮らし方の意向や希望の把握に活かしている。適時居担が主に追加記載し情報共有している。	入居前訪問では、本人の情報収集を詳細に確認し、ケース記録に残している。入居後には居室担当が「私の姿と気持ちシート」と題する記録シートを作成している。日常の関わりの中で共に寄り添うことで得られる本人の性格について記録シートに記載することで、職員間の情報共有が図られている。また、記録シートの表紙には、本人の似顔絵や趣味、特技などといった本人の特徴が記されており、親しみやすい印象を与えている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、前担当ケアマネージャー等からこれまでの生活歴や環境など情報収集し本人らしい生活スタイルに反映出来る様努めている。	入居前に本人や家族から情報を得るとともに、前任のケアマネージャーや事業所からも詳細な情報を収集している。入居後においては、日常会話や生活習慣を通して、事前に得た情報を再確認するとともに、本人の得手、不得手を見定めながら、これまでのライフスタイルを継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや心身の状態、現有能力の維持に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居担制を取り入れている。各課題の検討、定期的なモニタリングを実施しサービス計画に反映している。困難事項等は家族の意見を聞き取り計画に反映し作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、アセスメント情報を基に、ケアマネージャーが中心となって居室担当と共に介護計画を作成している。3ヶ月に1回、定期的に担当者会議を開催し、モニタリングが実施されており、随時のミーティング等で全職員からの意見を集約して、課題の評価や改善に向けた介護計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録を業務日誌に記載、情報共有に活かしている。申し送り事項などは専用のノートに記載気づきやケアの見直し事項として記録し計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種申請書類の記入、提出代行、生活用品の購入等の支援を行っている。理美容の希望で馴染みの店への送迎等家族の代行支援としても柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染拡大防止の観点から地域の行事やイベントは全て中止。事業所が主催する地域のお茶の間「笑いおい」は拡大状況を踏まえながら不定期で開催し楽しむ機会に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医があり定期受診同行や訪問診療時には医療情報提供を行っている。	本人と家族が希望する主治医に受診できるよう配慮している。職員による通院支援も行われており、医師に対しては、職員から事業所の様子が詳しく伝えられ、医師による診断や助言も職員を通じて事業所と家族にフィードバックがなされ、共有されている。また、訪問診療では、専任の看護師を配置しており、専門的な知見から適切な医療が受けられるよう支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員、看護職員は日々合同ミーティングを実施し情報の共有を図り利用者の健康管理に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療情報提供や退院時カンファレンスを開催し各職種間の連携を図る等関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時終末期について意向調査などを行い施設での「看取り」についても十分な説明を行い支援体制づくりに取り組んでいる。昨年は2名様の看取り支援を実施している。	入居契約時に重度化対応や終末期対応における方針について、十分な説明がなされるとともに、看取りについての意向調査も行われている。昨年は、実際に看取りを希望されるケースがあったことで、支援体制づくりに取り組んでいる。終末期という難しい場面における支援の提供であるだけに、本人はもとより、家族の意向にも寄り添いながら、主治医や看護師と連携した支援が可能となるよう取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルの見える化に取り組み看護師を中心に定期的に訓練や勉強会を実施し職員全員で取り組んでいる。	急変時や事故発生時の対応マニュアルが作成され、随時、見直しも行われている。マニュアルは、誰もが何時でも見られるように、ホールの目の届く場所に配置されている。また、看護師の指導により、急変時等における対応についての勉強会を定期的に開催しており、全職員が、現場に求められる対処方法等の知識を身に付けるとともに、訓練を重ねることで実践力を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備え年2回職員全員の避難誘導訓練を消防士立ち合いで実施している。同敷地内の小規模多機能と合同での避難訓練も実施し協力体制の構築に努めている。地域の消防団との合同訓練は今年度も中止となった。	年2回の避難訓練が、消防署立ち合いのもとで行われている。コロナ禍の影響による制約下においても、基本的な感染防止策を講じながら、円滑な避難誘導ができるよう、車いすの移乗方法など技術面での訓練も実施している。AEDの使用訓練も実施しており、AEDを玄関の側に設置することで、地域の方の利用も可能となっている。また、非常食や必要な備品も備蓄しており、賞味期限や利用期限などに留意した適宜の入れ替えもなされ、適切に管理されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性と人格を尊重し理念に沿った声掛けや寄り添うケアの実践に努めている。慣れ過ぎる言葉かけがスピーチロックに繋がらない様留意し対応している。	利用者一人ひとりの個性と人格を尊重するとともに、言葉遣いをはじめ相手を思いやる気遣いが、職員に行き渡っている。また、日常の何気ない言葉遣いが、スピーチロックに繋がることがないように注意も払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「私の姿と気持ちシート」を活用し本人の思いや希望を見出し自己決定に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルを重視し本人のペースで過ごされている。その日の気分や体調に合わせ身体機能の維持、気分転換を図るなど希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて身だしなみやヘアカット、ヘアカラーなど希望に合わせて個々の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みや食形態など体調に考慮し美味しく食べて頂ける様工夫し提供している。アイランドキッチンを活用し利用者と一緒に洗い物や食器の準備など行っている。	食事を提供する場所は、ホール中央にアイランドキッチンを設置し、利用者がいつでもどの位置からでも食事作りに参加できるよう配慮されている。食事作りにおいては、個々の能力に応じて日課として関わってもらったり、庭園の畑で利用者と職員が協働で収穫した野菜による料理で食卓を彩ったりしており、食事の楽しみを増幅させる工夫が取り入れられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを記載し一人ひとりの摂取状態を勘案し栄養バランスの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは支援の日課である。個々の口腔状態を観察し一人ひとりの必要に応じたケアの支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し日中は失禁の軽減を図るため定時のトイレ誘導、就寝前は夜間用パットの使用など個々に合わせて支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を日常的に観察しながら、本人の状況に合わせた個別支援を行っている。排泄の表現が困難な場合には、排泄チェック表の活用などにより、出来るだけ自然な形でのトイレ誘導に努めている。利用者の尊厳を重視しながら、排泄の自立に向けて積極的に関わっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向で排便コントロールが必要な為排便チェックを記録し内服管理、水分量や食事量を把握し一人ひとりの状態に沿った便秘予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回を予定しているが体調や気分により変更している。希望する時間帯の入浴は都度調整し午後入浴も可能としている。	入浴は週3回で午前中を基本としている。利用者の体調不良や気分の優れない時は随時変更するなど、臨機応変に対応している。浴室のスペースは広く、入浴しやすい環境整備も適切になされている。また、職員は利用者の転倒などの危険防止に気を配っており、安全で安心な入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ自由に居室で休息したりホールでウトウト昼寝をされて過ごされる等状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのくすり情報を収集し看護師が配薬管理している。内服チェック表でダブルチェックし誤薬を防いでいる。毎日朝のバイタルチェックで病変の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から趣味や特技等の情報を収集し楽しみややりがいを引き出す支援に取り組んでいる。家事が大好きだったり農家で草取りを生きがいにされていた方など個々の生活歴を活かした支援に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力づくりや気分転換を図る目的で毎日苑周の散歩に出かけている。また季節ごとの花見ドライブや園庭でお茶会、ラジオ体操、畑の収穫を楽しんだり日常的に戸外へ連れ出し健康管理に繋げている。	日常的な外出は、利用者の気分転換や健康管理の上で、重要であることから、基本的な感染予防対策に十分配慮した上で、近場で短時間ではあっても、出来るだけ外の空気に触れることができる計画的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難でありご家族からお小遣いを預かり日用品などの購入支援を行っている。ご本人の希望で嗜好品や衣類購入時同行し支払いをして頂く事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外に家族が在住している場合には定期的に電話で現況を報告しご本人と話す機会になっている。自ら電話して欲しい希望があれば取り次ぐ支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く窓から入る日差しが明るく心地よさを演出している。中央にアイランドキッチン設えてありご利用者と調理の準備をしながらコミュニケーションの場となっている。「ふれ愛コーナー」は家族や地域交流の場として活用している。	吹き抜けのあるホールには、天井からの日差しがホール全体を明るく照らしており、ゆったりとした雰囲気醸成している。ホール中央には、アイランドキッチンが設置されており、利用者と職員が語らいながら食事の準備をしている様子が微笑ましく感じられる。また、玄関側の「ふれ愛コーナー」は、家族との面会や地域の方との交流の場として、有効活用が図られ、快適な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールは共有スペースでテレビ鑑賞、カラオケやレクゲームなどの場所である。一人ひとりの身体状況に合わせ定期的に席替えをし居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室ベット、チェスト、クローゼットを設え馴染みの家具調度品も持ち込んで頂いている。空気清浄機を設置し環境にも留意しご家族ともゆったり過ごして頂ける広さで椅子も各室用意している。	全居室に配備されたベッド、チェスト、クローゼットのほか、本人ゆかりの家具、調度品を持ち込んでもらうことで、実家とのギャップを感じさせない配慮がなされている。家族の面会時には、居室で寛いで談笑できるよう椅子も用意されるなど、細かな心遣いも窺える。また、居室の隅々まで掃除が行き届いており、空気清浄機も設置され、衛生管理面にも気配りがなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全個室である。キッチンや食堂、共有スペースの配置に工夫し天井からの自然光を活かした建築である。和風の雰囲気の特徴に落ち着いた環境の中での生活を重視している。		